

こと能はず。然るに天津の豪商は殆んど全國著名の都府中に各支店を有せざる無く、從て其の信用手形の確實なるは豫想外にして、予は始終此の信用手形に頼りて些の不便なく隨處に所用の金額を受領し得たり。

諸般の準備始めて整ひ、汽笛一聲愈々北京を出發せしは、十月十有三日なりき。惟ふに故國は中秋天高く氣澄み、寒溫方さに宜しきを得て、小春日和と稱へられんに、此處は早や朔風身に染み、寒威日に加はらんとす。

第二章 北京、潼關(陝西)間

第一節 北京、鄭州(河南)間の行程

北京鄭州間は、京漢鐵道行程約四百三十哩、其の間保定に留ること三日、他は總て汽車旅行に依れり。

十月十三日午前七時十五分、列車は北京停車場を出發す。其の第一に迎へたる車站(停車場)を跑馬場パオマジャン或は拒馬堤チユイマダイと爲す。此の間其の北方のみ村落小林の疎々散在するものあるも、南方は全部開濶の波狀地にして、一望千里、遠く天に連れり。次